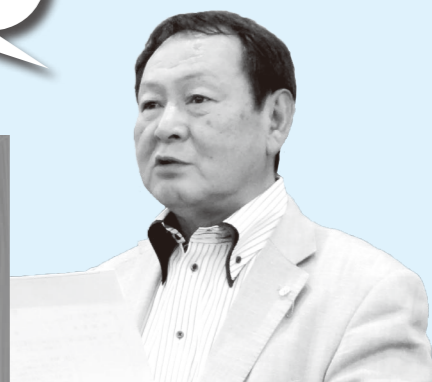


新しい事業の取り組みを



浅見 武志



町長

費用対効果も含め 研究していく

質問 ほかの市町村で成果を上げている事業を当町でも調査・研究し、導入を検討してはどうか。まず、業務の効率化につながるRPA（※1）は。

答弁 町長 業務量が多く、人の確認作業などを全く含まない、パソコン処理上で自動化できる定型業務において効果が望めると思われる。

当町においても情報収集しながら、どの分野で活用できるか、導入による費用対効果も含めて研究していきたい。

質問 バイオマス資源化、ごみの固形燃料化はどうか。

答弁 町長 これらの技術は導入が進んでいない現状ではあるが、ごみ処理技術は今後も日進月歩で進んでいくと思われるので、引き続き研究していきたい。

質問 愛犬の散歩をしながら、地域の見守りを行う防犯パトロール犬の取り組みは。

答弁 町長 防犯活動については広く募集するのではなく、学校・地域・役場・警察との信頼関係がある人をお願いできればと考えている。

答弁 町長 防犯活動については広く募集するのではなく、学校・地域・役場・警察との信頼関係がある人をお願いできればと考えている。

関係する組織との連携やどのようなに人選を行うかも含めて、警察や学校等と相談していききたいと考えている。

質問 読んだ本のタイトルを通帳のように記録する読書通帳について。

答弁 町長 現在、玉村町版の読書通帳の導入準備を進めている。これは、本の貸し出し時に貸出日・タイトル・著

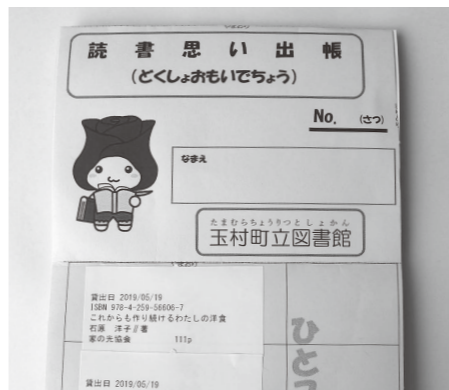
者等のデータが印字されるシートを発行し、このシートを通帳形式の台紙に貼っていくものとなる。

まず、夏休み前に小学1年生に読書通帳を配布し、夏休みからは図書館カウンターで6年生まで拡大し配布する。楽しみながら本を読む機会を増やすことにつなげていきたい。

質問 たまりんを利用し、通学距離が長い子供を支援する通学支援バスはどうか。

答弁 町長 たまりんは公共交通で広く町民に利用してもらおうものであるため、スクーリングバスとしての占有利用は難しいと考えている。

※1 RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）とは、人が行っていた入力作業等の定型業務をロボットにより自動化すること。



たまむら版読書通帳

主権者教育への一段の踏み込みを



石川 眞男



教育長

自治能力と社会への所属感を育成

質問 学校では、道徳教育での「従順な人づくり」に加え、政治的中立性に過度に敏感になり、現実の政治を扱う授業は敬遠されがちだが、若者の低投票率は社会から寛容さや多様性、柔軟性等を奪い、民主主義の危機さえ生み出しかねないと考えているが。

答弁 教育長 低投票率は若者の意見が政治に反映されないことから、民主主義の危機とも言える。

中学校社会科の授業において、国政選挙に合わせて、政党のマニフェストを提示し、どの政党

に投票するかを考えさせる実践も行っている。選んだ根拠を発表し合うことで、自分以外の見方にも気づくことができる。

質問 グローバル世界、AIの社会進出、外国人が急増する社会の状況からして、子供たちに、政治や行政の仕組み程度ではなく、社会と政治のつながりを考えさせる教育に踏み込む時期と考えるが。

答弁 教育長 予測困難な時代だからこそ、自治能力を育て、さらに深く広い観点から自分と社会や政治とのつながりを考えさせる主権者教育を推進したい。

教職員の労働時間把握とその対応は

質問 出勤調査の結果、教職員の労働時間をどの程度把握し、どのような具体策をとるか。

答弁 教育長 まずは「残業80時間超ゼロ」を目指す。

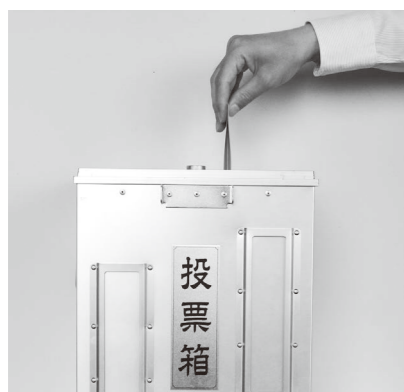
具体的には、「スクール・サポート・スタッフの配置等の人的環境整備」「休暇取得の奨励」「教職員の心身の健康状態の把握」「多忙化解消推進委員会の設置」の4点で対応する。

町内企業の展開要望に応える態勢づくりを

質問 東部工業団地開発等で、土地取得できなかった意欲ある町内企業に対して、町外に出て行かないような態勢をつくれぬか。

答弁 町長 これまで以上に、企業からの情報収集と企業への情報提供を行うことが必要である。

ヒアリング調査を検討するとともに、町商工会や金融機関などとも連携した態勢づくりを研究したい。



主権者教育への一段の踏み込みを